

令和5年度第1回 三島市子ども・子育て会議 議事録

業務名	第3期 三島市子ども・子育て支援事業計画策定支援業務																
日時	令和5年10月17日(火) 14:00~16:00																
会場	三島市役所 大社町別館1階 防災研修室																
出席者	<p><令和5年度 子ども・子育て会議委員>19名(欠席4名) (会長)山本 睦委員 (副会長)杉村 太陽委員 岩清水 伴美委員 飯田 志帆委員 青野 芙美委員 芹沢 令子委員 渡辺 知佳委員 山田 将隆委員 加藤 保委員 越膳 良子委員 森島 チエ子委員 菅田 浩代委員 野田 由美子委員 小早川 宏子委員 鈴木 真委員 小田部 崇子委員 平賀 治代委員 山谷 宜子委員 森 万紗子委員</p> <p><事務局>8名</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">社会福祉部</td> <td style="width: 50%;">部長 水口 国康</td> </tr> <tr> <td>健康づくり課</td> <td>課長 浅見 徹哉</td> </tr> <tr> <td>子育て支援課</td> <td>課長 渡邊 由美</td> </tr> <tr> <td></td> <td>課長補佐 朝木 紀智</td> </tr> <tr> <td>発達支援課</td> <td>主査 遠藤 和哉</td> </tr> <tr> <td>子ども保育課</td> <td>課長 杉山 克博</td> </tr> <tr> <td>教育総務課</td> <td>課長 渡邊 力</td> </tr> <tr> <td></td> <td>課長 杉山 慎太郎</td> </tr> </table> <p><傍聴人>1名</p> <p><委託業者(株式会社ぎょうせい)>3名</p>	社会福祉部	部長 水口 国康	健康づくり課	課長 浅見 徹哉	子育て支援課	課長 渡邊 由美		課長補佐 朝木 紀智	発達支援課	主査 遠藤 和哉	子ども保育課	課長 杉山 克博	教育総務課	課長 渡邊 力		課長 杉山 慎太郎
社会福祉部	部長 水口 国康																
健康づくり課	課長 浅見 徹哉																
子育て支援課	課長 渡邊 由美																
	課長補佐 朝木 紀智																
発達支援課	主査 遠藤 和哉																
子ども保育課	課長 杉山 克博																
教育総務課	課長 渡邊 力																
	課長 杉山 慎太郎																
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 挨拶 4 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1)「第2期三島市子ども・子育て支援事業計画」に基づく各事業の実績報告について (2)三島市子どもの生活実態調査について (3)特定教育・保育事業の利用定員について 																

	5 その他 6 閉会
配布資料	次第 令和5年度 子ども・子育て会議委員名簿 三島市子ども・子育て会議条例 令和5年度第1回三島市子ども・子育て会議 座席表 三島市子ども・子育て支援事業計画の施策・事業 評価シート (資料1) 三島市子どもの生活実態調査<大人票> 三島市子どもの生活実態調査<子ども票> 令和5年度三島市子どもの生活実態調査について 特定教育・保育事業の利用定員について

略称略

協議内容（要旨）	
1	開会
2	委嘱状交付 水口社会福祉部長より委員へ委嘱状の交付
3	挨拶 水口社会福祉部長より挨拶 山本会長より挨拶
4	議題 (1)「第2期三島市子ども・子育て支援事業計画」に基づく各事業の実績報告について 事務局より「三島市子ども・子育て支援事業計画の施策・事業 評価シート」に沿って説明（資料1） (会長) ただいまの事務局からの説明について、何か意見はありますか。 (会長) 事業の評価項目が効果的なのか、効果的ではないのかという項目しか見られません。利用量と供給量について、人口減少の中、人とお金がどれだけ投入されてどの程度の効果が見られるのか確認する必要があります。ただ利用者が利用できている、うまくいっているということで評価するのではなく、どれだけの効果があるかを明確化する必要があります

協議内容（要旨）

す。事業や優先度をエビデンスで示していただきたいです。

あわせて、事業の優先度を決めていくことが必要ですので今後検討をお願いします。

（社会福祉部長）効果的な評価方法には活動指標と成果指標がありますが、こちらは国の方針に沿った資料作成になっています。その他の評価方法について別資料を作成することは可能ですが、効果については、他市町でもあまり公表しておりません。また、優先度についてはなかなか順番をつけるのは難しいところがありますが、今後検討したいと思います。

（会長）三島市の総合計画では、優先度の記載があったので、子育ての計画にもそのイメージがありました。事業が効果的かどうかについて、例えば、人が来ている、来ていないなどで判断するのはあまり適切ではないように思います。ただ人が集まればいいという問題でもないように思います。

（委員）資料1__13頁 子育て悩み相談会の参加者のうち、精神科を受診されている保護者の手帳所持率等を教えてください。そういった方たちへの更なる支援が必要な状況について、分かる範囲で教えてください。

（事務局）現在、手元に詳細な資料がありませんので、具体的なことはお答えすることができませんが、そういった手帳をお持ちの方がいるということは認識しております。子育てのストレスや様々な問題が重なることにより精神科を受診されている状況がうかがえます。

（委員）保育園の待機児童について、両親が育休をとるためにあえて待機を選択する家庭、特定の園を希望するため待機を選ばれるとの話がありました。ただ数字だけを見ると、三島市にはこんなにたくさん待機児童がいるのかと感じます。その数字の内情は公開されているのでしょうか。

（事務局）待機児童に関しては、これまでも具体的に公開しておりませんが、議会答弁などで4月1日時点の状況を回答しています。市としても、育児休業を推進しているところですので、本指標についてもゼロにすることは難しいところです。

（会長）保育士への支援も厚くしてほしいです。園を利用する保護者とその子どもへの支援など、市役所が間に入ることは大切なことだと思います。

（2）三島市子どもの生活実態調査について

委託業者より「三島市子どもの生活実態調査〈大人票〉、三島市子どもの生活実態調査〈子ども票〉」及び「令和5年度三島市子どもの生活実態調査について」に沿って説明

協議内容（要旨）

- （会 長）ただいまの事務局からの説明について、何か意見はありますか。
- （委 員）三島市子どもの生活実態調査＜子ども票＞の中で、問 10 の持っているものについての設問は、兄弟姉妹がいる場合は所有物が共有されるため、『自由に使える（もの）』など聞き方を工夫していただけたらと思います。また、現在の子どもたちはインターネットやスマホは遊ぶものではなく生活ツールになっていますし、ゲームもスマホで行うようになり、ゲームソフトの利用も減っているように思います。今回の調査はこのままでよいかもしれませんが、次回以降の調査ではこれらについて検討したうえで調査設計を行っていただきたいです。
- （事 務 局）調査票の内容については、いただいたご意見を踏まえて事務局内で再度検討させていただきます。
- （委 員）前回の調査から見えた課題等についての施策の経過について教えてください。
- （事 務 局）資料_10 頁 貧困対策の際に説明いたしましたが、前回から改善された点として、子どもの配食支援事業と塾の支援の 2 点を実施しております。
- （会 長）アンケート調査の対象として、小学 5 年と中学 2 年は、他人にどう見られているのかが自分で分かる年齢です。回答としてちゃんとした数値が出るのか不安に感じています。分析時には回収率等も含めて勘案してほしいと思います。量的調査では限界がある問題です。
- （委託業者）数字にとらわれず、そこが全てではないことを念頭に置いて情報を活用したいと思います。

（3）特定教育・保育事業の利用定員について

事務局より「特定教育・保育事業の利用定員について」に沿って説明

- （会 長）ただいまの事務局からの説明について、何か意見はありますか。
- （委 員）保育園の事情について、保育園は 1 号認定の子どものを預かっているわけですので、保育園にいる資格がなくなった子どもを 1 号認定として預かるということがあるのでしょうか。
- （事 務 局）例えば、退職などで仕事なくなってしまった親の子どもが退園しないように、基本的には退園をしなくて済む、地域に弾力性を持たせることを目的として対応しています。
- （会 長）新制度になり、幼保連携型になることが保育者の質の向上につながりま

協議内容（要旨）

す。しかし、幼保連携型の資格は保育教諭となり、保育者不足から教育機関が保育所型の場合は、保育学校からは幼稚園実習に出せない状況です。これを改善し連携型にしていだけたらと思います。

（事務局）今までの施策では待機児童への対応として量の確保を優先してきましたが、これからは量より質の確保が重要であるという時世の流れもあります。現在、市内の私立の幼稚園が、幼保連携型認定こども園へ移行している流れをくんで対応しているところです。

実習に関しましては、市で養護カリキュラムを拡充して対応しています。

（副会長）その部分は非常に重要ですので、ぜひよろしくをお願いします。

（会長）その他、意見はありますか。意見がないようですので、本日の議事を終了させていただきます。

5 その他

事務局より子ども家庭センターの新設、統括支援委員の設置について説明

本会議は本年度中に1回開催予定、議事としては「子ども・子育てニーズ調査について」を予定

6 閉会